

松川浦に造成したヒトエグサ種場における天然採苗の状況

福島県水産試験場 相馬支場

部門名 水産業—松川浦—藻場

担当者 成田 薫

I 新技術の解説

1 要旨

松川浦で震災により失われたヒトエグサ種場を補うため、中洲北部に人工の干潟を新規造成した。この種場は、2017年1月より供用され、漁業者によりヒトエグサ母藻の移植が行われた。同年9月には、ヒトエグサの天然採苗のためノリ網の張り込みが行われたが、竣工後、初着手のため漁業者からはヒトエグサ着生の良否に不安の声が聞かれる。

今回、ヒトエグサ種場としての天然採苗の成否をみるため、ノリ網へのヒトエグサ付着を目視観察し、状況を整理した。これにより、この新規種場における利用改善の検討に資する。

(1) 調査を行った新規造成種場の位置を図1に示す。造成種場は中洲の北側に位置し、海水の交流する開口部は西側に開いている。ノリ網は、南北に20間4列に区切り、地形に合わせてノリ柵の設置場所を割り当てている。本報告では、便宜的に東西南北を軸に4つのエリアに区切り結果を取りまとめた。天然採苗によるノリ網へのヒトエグサ付着状況は、2017年10月4日にノリ網の目視観察を行った。各エリアに設置されたノリ柵全てについて、ノリ柵毎に3段階評価（良・可・視認できず）で整理し記録した。またノリ網の設置状況について、ノリ網の高さ、反数を記録した。

(2) 天然採苗状況を図2に示す。網入れは、主に8/31～9/6に行われた。網入れ後、約1ヶ月となる10月4日時点での目視観察による着生状況は、良好なノリ柵が約4割、可で約3割であった。網高さと着生状況をみると、高さ33cmまでで着生の割合が高く、実際の網高さはほとんどがこの高さまでの設置が行われていた。エリア毎に着生状況をみると、開口部に近いAで着生を視認できなかった網が多く、開口部から奥に位置するB～Dではその様な網は少なかった。Aに設置されたノリ網については、着生が非常に少ないか、着生後の生長が遅く視認できないことが推測された。

(3) その後、漁場に展開されたノリ網について漁業者から聞き取ったものについては、育成状況に大きな問題は聞こえず、従来種場で天然採苗を行ったノリ網と遜色なかったものと考えられる。

2 期待される効果

新規造成した種場の初シーズンの採苗状況を整理した。天然採苗を行う漁場としては、実際の採苗状況から、従前の種場の機能を再現できるものと考えられる。開口部とその他のエリアでは、環境特性が異なることが推測され、それに応じた利用を検討することができる。

3 適用範囲

松川浦におけるヒトエグサ養殖業に関する技術指導、造成に係る事業効果の把握

4 普及上の留意点

採苗後の育成状況について補足調査を行った上で評価することが望ましい。現状では問題はないが、開口部の堆砂など変化が生じる可能性に留意する必要がある。また、調査を行った2017年は、夏期の天候不順があったことから、その影響も無視できない。今後の天然採苗シーズンも継続的に観察する必要がある。

II 具体的データ等

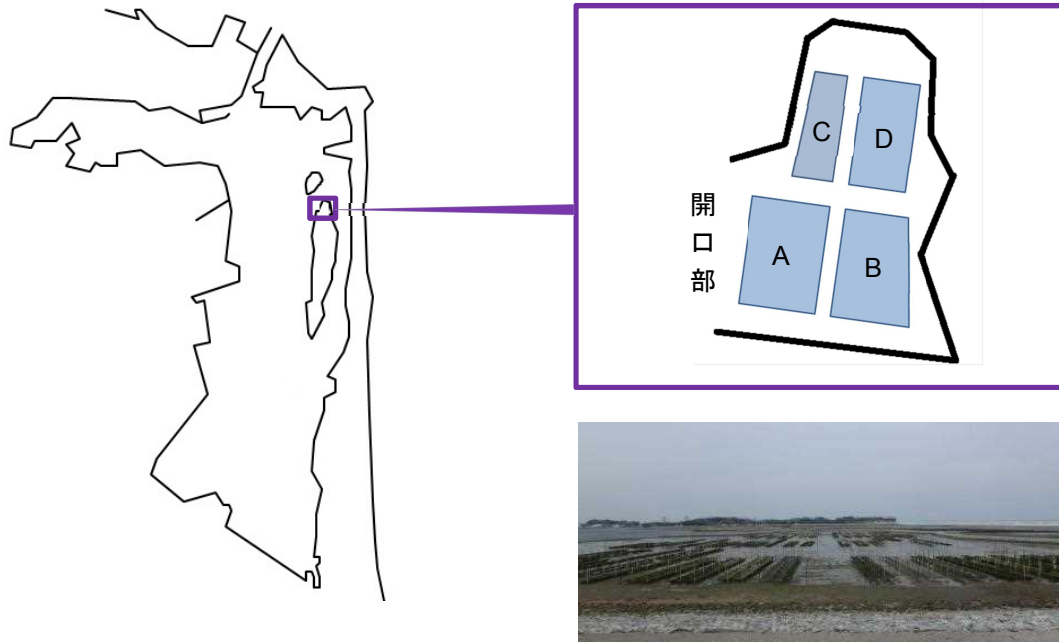


図1 新規造成種場の位置、調査区域(左:位置 右上:調査区域 右下:全景写真)

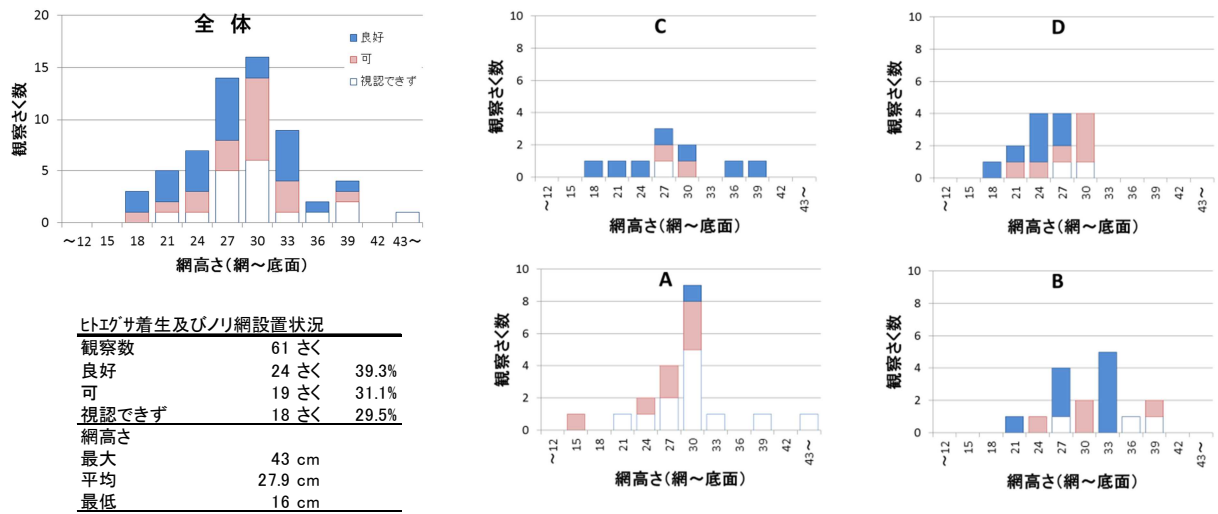


図2 造成種場の天然採苗状況(左:全エリア計 右:各エリア)

III その他

1 執筆者

成田 薫

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成29年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

3 主な参考文献・資料

なし